

「奈良公園」内におけるリゾートホテル建設反対署名

趣旨

2013年、奈良公園の景勝地「若草山」にモノレールの建設計画を発表した奈良県の荒井知事が、再び奈良公園にリゾートホテルを建設しようとしています。当該地は「国指定の名勝」であり、「文化財保護法」や「古都保存法」に基づいて「歴史的風土特別保存地区」に指定されています。このような厳しい規制地域には本来一切の建造物を構築することは認められないはずです。また、当該地は「奈良市風致地区条例」によって「第一種風致地区」に指定され、一切の商業施設の営業は認められていない地域でもあります。さらに、この地は奈良公園が「ユネスコ世界遺産」の認定を受けるにあたって、住民の居住地区とのバッファゾーンとして位置づけられており、世界遺産登録に関する違約行為の疑念があります。県は国から当該地を購入し、奈良公園に編入した上で、県の裁量でホテルを建設しようというものです。公園法によれば、公園の用に呈する建造物以外は建てられないことになっているはずです。県は、さまざまなルールを捻じ曲げてでもホテルを建設しようとしているのです。

インバウンドツーリズムの促進、2020年東京オリンピックを控えて、奈良にホテルが必要だとの時流は理解できても、それが、この地である必要性はありません。自然環境を観光資源として活用する事業が、ムササビや野鳥の生息するこの自然環境を壊すのは本末転倒です。知事は、県議会の答弁の中で、「反対する住民は一部であり少数だ」と無視して計画を推進する姿勢です。

奈良公園は、日本国の宝であり、世界遺産の登録を受けた世界の財産です。子々孫々に悔いを残さないため、そして「反対意見」が少数ではないことを示すために、日本全国の見識ある皆さまの民意として「署名」をいただきたく存じます。何とぞ、ご賛同・ご協力をお願いいたします。

要請事項

奈良市高畑町の県有地（裁判官官舎跡地）における「リゾートホテル建設計画」の速やかな中止を求めます。

署名呼びかけ団体／呼びかけ人

奈良公園の環境を守る会・高畑町住民有志の会

辰野勇（代表）、田中幹夫、椎名誠、夢枕獏、野田知佑、渡辺一枝、天野礼子、風間深志、大場隆博、佐藤秀明、林家彦いち、寺田克也、吐山 真、藤森善正、小宮みち江、大尻育子、桧垣泰弘、波多野武司

署名用紙はウェブサイトからもダウンロードできます。（オンライン署名も可能）

www.nara-park-mamoru.jp

